

日本人だからできる 国際協力がある

2時間目が始まった聖徳学園高等学校2年1組の教壇には3人の先生が立っている。国語科の先生が2人、そして中央で授業を取り仕切るのはいくつかの先生だ。この一風変わった授業は、同校が力を入れる「国際貢献授業」。その特長は、一部の生徒や特定の期間に限った活動ではなく、週1回ある総合の時間を活用して、高校2年生になった生徒全員が年間を通して国際協力について学び・考え・実践する、という点だ。

前期はJICAの協力の下、JICAボランティアの経験者7人を講師に招き、全7クラスがそれぞれ異なる開発途上国の現状や課題について講義を受けた。そこで学んだことを基に各生徒が調べ学習を重ね、現在は、日本にいながらできる貢献の方法をグループで知恵を出し合いながら考えている段階だ。

この日、2年1組はグループ活動の真っ最中。生徒たちは、チュニジアのボランティア経験者から聞いた地域の現状についての講義を踏まえ、「日本でチュニジア特産のオリブオイルの販路を開拓する」「テロの現場を避けたルートを紹介するパンフレットを作成し、観光業を再建する」などさまざまな協力のアイデアを持ち寄っていた。取り組み姿勢は、真剣そのもの。それにもかかわらず、これは単なる座学ではなく、数カ月後にはアイデアを実際に



「日本人がこれから世界に羽ばたくために」をテーマに開催したシンポジウム。オランダ大使と杏林大学副学長も招いて発表を行った

行動に移す「国際貢献プロジェクト」だからだ。しかも、その過程で生徒は、自分の考えを論文やプレゼンテーション資料にまとめ、JICA職員や講義を担当してくれたボランティア経験者を前に発表したり、アイデアの実践後には、結果を論文に仕上げ報告したりする。実践を重視しつつ、書く力や発信力も問われるグローバル教育だからこそ、国語科の先生のアドバイスも必要になるのだ。

「当初、こんな授業を担当するとは思っていませんでした。そう語るのはいくつかの先生だ。この一風変わった授業を総括する山名和樹さんだ。山名さんは、アメリカの大学・大学院で心理



チュニジアの失業問題を知り、「起業に関心を持ってもらいたい」と協力のアイデアを練るグループ

世界とつながる
教室

「知る」から「やってみる」グローバル教育へ

東京都武蔵野市の聖徳学園高等学校。同校では「日本型グローバル人材」というリーダー像を掲げ、知るだけでなく、実際の行動に移すことを大切にするグローバル教育を展開している。



connect with
Tunisia
チュニジア



情報端末を活用しながら生徒に活動のアドバイスをする山名さん

学を勉強し、卒業後も現地の小学校でカウンセラーとして1年間勤務していた。聖徳学園での勤務は8年目を迎える。現在のグローバル教育に結び付く直接のきっかけは、昨年訪れたフィジックでの経験だ。アメリカ資本の有名ホテルやブランドショップが立ち並ぶ風景に、「現地固有の文化がないがしろにされている」と違和感を覚えた。

「ほかにも、青年海外協力隊の方々と交流を深める機会もありました。その中で、日本人は相手を思い、現地の文化や価値観を大切しながら共に活動できる点で、国際協力に適した資質を持っていると考えるようになったのです」。山名さんは、日本の若者がこれから世界で活躍していくためには、欧米志向に走るのではなく、日本人の特性を生かしていくことが重要だと強調する。「そして、高校という場は日本人としてのアイデンティティを見つめ直したり、世界を舞台により効果的に活動するための考える力や発信力を鍛えるのに最適な場だと思うのです」

海外行ってよかったの先に 真の学び

これまでチュニジアについて考えたこともなかった2年1組の生徒たち。「実際に現地でも活動していた人の話を聞いて、意外と貧しくないんだな」と思っていた。意外と貧しくないんだなと思っただけで、口にした協力を目標とする藤井凛さんは、「できることは少ないかもしれないけれど、私たちにやれることは絶対にある」



JICAの教師海外研修で昨年モンゴルの高校に行った美術担当の石田恒平先生(右)が、両国の生徒をつなげるべく、帰国後に生徒が描いた絵を送ると、現地からもお返し絵が届いた



ベトナムと武蔵野市をビジネスで結び付ける活動の調査で、JICAベトナム事務所を訪れた生徒たち。収益は孤児の教育費として寄付する計画だ。写真は現地大学生との交流

と、実現への意欲を見せた。活動を見守る伊藤正徳校長は、同校のグローバル教育の火付け役だ。「学年主任だった2005年当時、海外研修はありましたが、行ってよかった、で終わって良いのかと疑問に思ったことが始まりです」と、開発途上国を視野に入れた同校のグローバル教育の原点を振り返る。そんな伊藤校長は、山名さんの優れた国際感覚を信頼し、国際貢献授業を一任している。

同校では、この他にも山名さんの指導の下、「日本型グローバルリーダー」の育成を目指し、起業の視点を取り入れながら、ベトナムと地元武蔵野市をビジネスで結び付ける活動の調査で、JICAベトナム事務所を訪れた生徒たち。収益は孤児の教育費として寄付する計画だ。写真は現地大学生との交流